

平成29年度
津久見市学力向上施策
～つくみっ子の夢を育む！～



写真：四浦半島「河津桜」



津久見市教育委員会

平成29年度 津久見市学力向上の取組

現状・課題

【平成28年度全国学力・学習状況調査】

- (小6) 算数A以外は全国平均を下回る。
- (中3) 国語B・数学Aで全国平均を上回る。

※活用問題・B問題が課題※

【平成28年度大分県学力定着状況調査】

- (小5) 国語・算数ともにすべての項目において全国平均を上回る。
- (中2) 国語・理科の活用が全国平均を下回る。その他は全国平均を上回る。

【平成28年度津久見市学力調査】

- (小1～6) 国語・算数ともにすべての学年・教科で全国平均を上回った。
(昨年同様、大幅に伸びている。)
- (中1～2) 中1の数学・理科が全国平均を下回った。その他は全国平均を上回る。

○大分県学力定着状況調査ならびに津久見市学力テストにおいて、小学校の成績が着実に向上してきている。中学校は、大分県学力定着状況調査において、国語・理科の活用問題以外は、全国平均値を上回っており、小学校同様、力をつけてきているが、津久見市学力テストにおいては、1年生の理数系に課題を残した結果となった。

○各種学力調査において、学校間格差・学年間の格差が見られる。津久見市全体として新大分スタンダードに基づいた授業改善に引き続き取り組んでいく必要がある。

○活用型の問題を苦手としている児童生徒が多く、思考力、判断力、表現力を向上させるためにさらなる言語活動の充実が課題である。

○学びに向かう集団づくり、共通の学習規律の徹底を図るため、学年間の連携を図り、共通の取組を進めていく必要がある。

○低学力層の学力アップを進める具体的な方策を定め、早期に実行に移す必要がある。

つくみっ子の夢を育むために

津久見市で統一した組織的な学力向上の取組が急務

1. 学級づくり

学習規律の確立

2. 新大分スタンダードに基づいた授業改善

弱点補強

3. 指導学習（基礎・基本）

組織的な学力向上の取組

1. 学級づくり・学習規律の確立

(1) 学級開きの取組 → 生活規律・学習規律の確立

- 「まちがうことは学習権」の価値観の徹底→安心して発言のできる教室づくり
- あたたかな関わり合い→安心して学ぶことのできる学級づくり

(2) Q-U調査を活用した学級づくり

- 年間2回のhyper-QU調査（小5・6年 中1・2年）

具 体 案

- ・学級開きの取組→生活規律・学習規律の確立
- ・スタートカリキュラムの取組（小1・中1）
- ・「津久見市授業モデル」「共通指導事項」「授業改善プラン」周知徹底
- ・各校における「学力向上プラン」「授業改善5点セット」の作成
- ・児童会・生徒会を中心とした「学習目標」「学習規律」づくり
- ・Q-U調査を活用した学級づくり（6月・11月）

2. 授業改善

(1) 「津久見市授業力向上プロジェクト2017」

- | | |
|-------------------|-------------------|
| プロジェクト [1] 【授業視察】 | [2] 【学力向上推進PTの活用】 |
| [3] 【学力向上に係る研修会】 | [4] 【学びに向かう集団づくり】 |
| [5] 【授業改善への挑戦】 | |

(2) 「新大分スタンダード」の徹底

ポイント

主体的・対話的で
深い学びを創造するために



新大分スタンダード

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

1 1時間完結型

「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習環境」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

「主体的・対話的で深い学び」を創造する学習展開

各教科の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価」等の学習過程の中で行われる

- *問い合わせの発見・解決、自己の考え方の形成・表現、思いに基づく構想・創造
- *様々な人との対話・協働による自分の考え方の深化・拡充

(3) 授業改善PDCAサイクルの確立

具 体 案

- ・「全国学力・学習状況調査」「大分県学力定着状況調査」の結果分析および改善に向けての方向性と具体的な取組の共通確認
- ・授業改善計画に基づく授業改善5点セットの推進
- ・各校における短期PDCAサイクルによる検証と改善
- ・「授業観察」「児童生徒による授業評価」に基づく各教科におけるPDCAサイクルの確立

【日常的な授業改善】

- ◆管理職の授業観察・互見授業等実践
- ◆授業観察シートの活用
- ◆児童生徒による授業評価の活用

3. 補充学習(基礎基本の定着・弱点補強)

- (1) 「つまずきを次年度に持ち越さない補充学習」の取組
- (2) 基礎基本の定着をはかる家庭学習の取組
- (3) 放課後や長期休業中を活用した補充指導の取組

具 体 案

- ・「つまずきを次年度に持ち越さない補充学習」→データベースの活用等
- ・「津久見市学力調査」と連動させた基礎基本の定着・弱点補強の取組
- ・「全国学力・学習状況調査問題」を活用した授業の実施→3回以上
- ・授業と連動した課題の提示
- ・夏休み学力向上ステップアップ教室を小・中ともに5日間以上実施
→内容の工夫充実
- ・冬休み中の基礎基本の定着・弱点補強を目指した適切な課題
→点検・指導
- ・外部人材・講師の活用
→「夏の学習クラブ」「春の学習クラブ」(算数・数学5日間)
- ・「放課後学習クラブ」(小学生希望者を対象・隔週水曜日)
- ・「土曜寺子屋つくみ塾」(小学生を対象・月1回)実施

津久見市授業力向上プロジェクト2017

～つくみっ子の夢を育む～

[プロジェクト1]【授業観察】

優れた授業実践に学ぶため、各部会・各教科部員を中心に視察を行う。

- 小学校各部会→（国語・算数）
- 中学校各教科→（国語・数学・英語）
- ※先進地の授業実践を校内研修にて還流。
- ※学力向上会議等での報告。

[プロジェクト2]【学力向上推進PTの活用】

- 公開授業（年3回）の実施による授業スタイルの普及。（新大分スタンダード・津久見市授業モデル）
- 各校での授業観察による授業者への指導助言。
- 校内研修・指導案審議に参加しての指導助言。
- 実践「指導案集」を作成し各校に配布
- 「小学校への乗り入れ授業」→外国語活動

[プロジェクト3]【学力向上に係る研修会】

- 全教職員参加のもと、県又は教育事務所指導主事を招聘し、授業改善に係る講義を行う。
- 第1回→各分科会（小学校学年別・中学校担当別）において、指導案作成ならびに活用問題作成等行う。
- 第2回→各分科会において、学級経営ならびに授業力・生徒指導力向上の研修を行う。

[プロジェクト4]【学びに向かう集団づくり】

- 学級づくり・仲間づくりの研修推進（講義等）
- 集団づくり→「授業観察シート」の活用
「児童生徒による授業評価」
- 学習規律→「共通指導事項」の徹底
津久見スタンダードの確立

[プロジェクト5]【授業改善への挑戦】

- 「新大分スタンダード」に基づいた授業実践を各校の互見授業にて全員が必ず行う。

- ◆新たな授業の視点
- ◆自己実践の振り返り
- ◆新たな気づき
- ◆意識改革
- ◆教科部会の活性化
- ◆各校において還流
- ◆全教職員に周知徹底
- ◆各校で実践
- ◆授業改善のPDCA

みんなで挑戦！
みんなで磨き合い！
みんなで学び合い！

授業力の向上

子どもたちの
「わかった」「できた」の
声が聞こえる授業へ

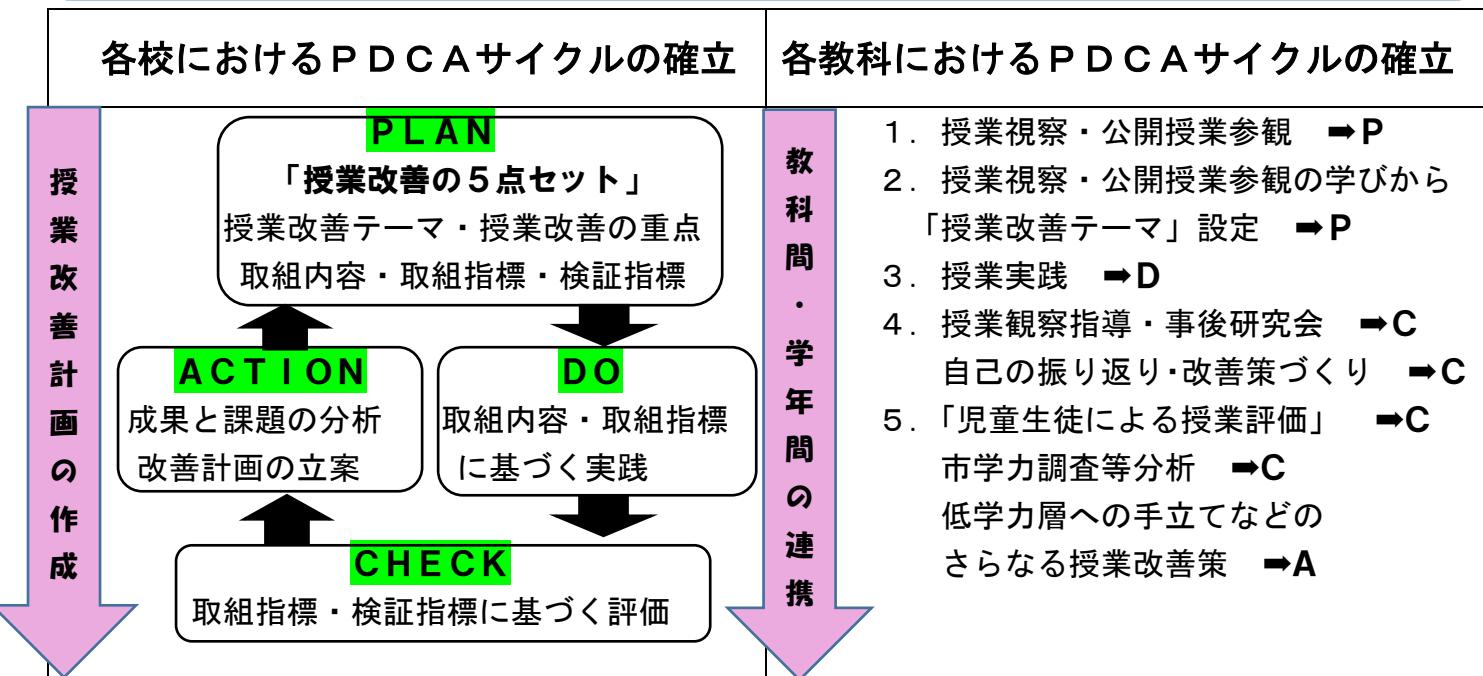
学力向上

子どもたちの夢に
向かう力

夢の実現へ

つくみっ子の夢を育む！

授業改善PDCAサイクルの確立



学力向上推進PT（プロジェクトチーム）

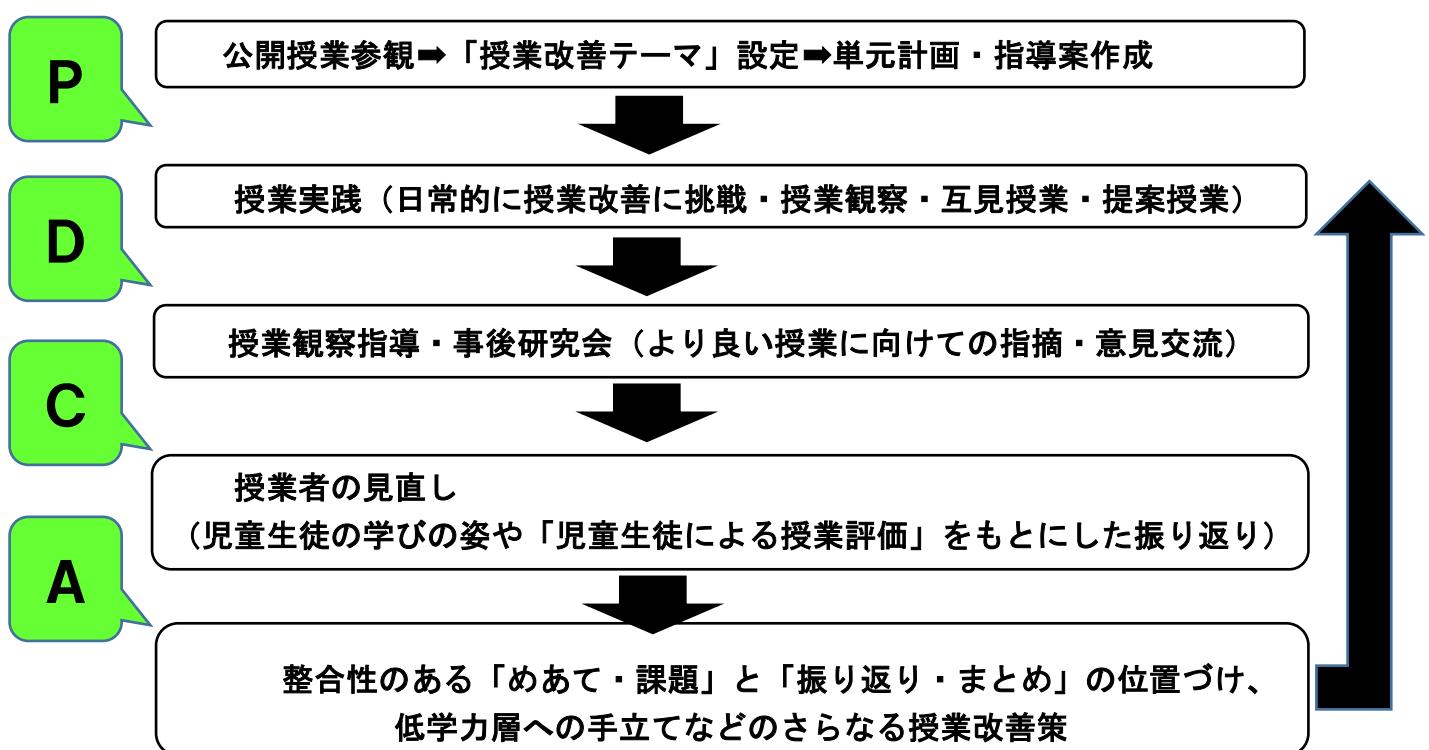
チーム構成	<ul style="list-style-type: none"> ○津久見市教育委員会学校教育課 課長・指導主事 ○学力向上支援教員（小学校国語） 青江小学校 山本 清子 教諭 ○習熟度別指導教員（中学校数学） 第二中学校 三木 裕 教諭 ○（中学校英語） 第一中学校 門田 佳代 教諭
H29 ミッション 1 学期 授業実践① PTに学ぶ 2 学期 授業実践② 授業観察① PTによる指導助言 3 学期 授業実践③ 授業観察② PTによる指導助言	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における児童生徒の知識の定着と活用力の育成を図るため、津久見市の教職員の授業改善に取り組む。 ○「新大分スタンダード」に基づく「問題解決的な展開の授業」「生徒指導の3機能を意識した「授業」や、津久見市における「習熟度別授業」のモデル作成に取り組み、本務校ならびに訪問校にて「授業公開」を実施し、市内に実践を広める。 ○学校における補充学習及び家庭学習の支援に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ◆年3回授業公開を行う。 ◆指導方法の工夫改善教員との連携と具体的な工夫改善への支援・指導。 ◆「共通指導事項」「授業改善プラン」を作成・提示する。 ◆各校校内研修・指導案審議に参加し、「新大分スタンダード」の徹底を図る。 ◆市学力向上に係る研修会各分科会（小学校学年別・中学校教科別）での指導案審議において指導助言を行う。 ◆低学力層への具体的なアプローチについて研究し、市内に発信する。 ◆「小中乗り入れ授業」（小学校外国語活動を中心に） ◆年間の授業実践のまとめとして、指導案集を作成・配布する。

学力向上推進PT授業公開の参加体制

公開授業等	
学力向上支援教員（小学校国語）	年3回（1回は必ず拠点校の校内研修を兼ねて）（1回は必ず訪問校において） 年1回 市学力向上研修会学年別分科会で指導案検討・作成
習熟度別指導教員（中学校数学）	年3回（1回は必ず勤務校の校内研修を兼ねて）
習熟度別指導教員（中学校英語）	年1回 市学力向上研修会教科別分科会で教材・指導案検討

種 別	年間参加体制
小学校教諭（青江小学校）	自校校内研修+中学校数学・英語・小体育に計2回以上
小学校教諭（青江小以外の小学校）	小学校国語・中学校数学・英語・小体育に計2回以上
中学校教諭（国語科教諭）	小学校国語・中学校数学・英語に計2回以上
中学校教諭（数学科教諭）	中学校数学・中学校英語・小学校国語に計2回以上
中学校教諭（英語科教諭）	中学校英語・中学校数学・小学校国語に計2回以上
中学校教諭（上記の教科以外）	中学校数学・中学校英語・小学校国語に計2回以上

学力向上推進PTの公開授業 PDCA



学力向上推進PTより発信→各校で周知→実践

学びに向かう力を育むための共通指導事項

学習環境

- チリのない廊下や階段
- きれいな黒板
- UDを意識した教室前面
- 整頓された机とイス・ロッカー

津久見スタンダード
4点セット

学習規律

- チャイム開始
- 目と耳で聴く
- 話型を意識した話し方
- 学習用具の準備（授業に不必要的ものは持てこない）

学力向上指導

- 授業構成の確立「導入—展開—終末（確認テスト）」
- 板書の構造化「『めあて』と『振り返り』、『課題』と『まとめ』を板書に位置づけるプレートの利用
- 互見授業での授業観察シートの活用
- 生活（連絡）ノートへの記入の徹底（宿題の確認）

家庭学習

- 個に応じた課題（データベース等の活用）
- 家庭との連携強化



pixta.jp - 19543808



pixta.jp - 18615067

津久見市算数・数学「問題解決型」授業モデル案

＜津久見市算数・数学「問題解決型」授業モデル案＞

教師の役割・動き		場	子どもの学びの姿(思考の流れ)	学習活動を支えるための留意点
課題成立まで	① 子どもが問題を解決したくなるように導入の工夫をする ※問題場面を理解しやすいように具体的に設定する。 ※前時に課題が生まれている場合は、課題確認から授業を始める ※前時の振り返りから本時の学習内容に入る場合は、何がわかつていて何がわからないのか明確にする	意欲化の場	教材と出会い、解決に向けた願いをもつ ・どうなっているのかな? ・やってみたいな? 算数の世界に入る 数や図、式で表せないかな?	○本時の到達像(まとめ・答え)を描く ・子どもが何と言えばよいのか ・どんな考え方ができればよいのか
	② 既習事項と比較したり、考え方の違いに目を向けさせたりして、困りや疑問を焦点化する ③ <課題>を板書に位置づける ※<課題>のプレートを貼り、赤線で文言をはさむ		自分の考え方を明らかにする ・Aと思う・・・Bと思う・・・ ・あの考え方を使うと・・・ではないかな?あれ?できないよ ・わかっていることは○○、でも・・・△△がわからない 互いの考え方の違いや疑問、困りが見え始め、課題に目を向ける 数的的解決方法を探りだす <課題>が位置づく どうすれば解決できるかな?	○<まとめ>(答え)に対する<課題>(問い合わせ)の文言を準備しておく ・子どもの「つぶやき」から課題が位置づくように ○本時の評価規準を決めておく ・本時の学習で、つける力は何か考えておく
	④ 考えを持たせる ※ワークシート等を用意し、数学的表現方法を習得させていく ※全体状況や個に応じて、ヒントとなる教具やプリントを与える ※ペアで考えを聞き合せ自分の考えに自信を持たせる	自己存在感を与える場	解決に向けて考え方をもち、自己表現する(数学的思考と表現) ※ノート・ワークシート等で ・自分の考えを整理するために ・自分の考えをよりわかりやすくするために ・他の考えを理解するために 互いの考え方を表現したり、理解したりしながら、考え方の相違点や共通点から新たな見方・考え方を生み出す ・Aの考え方とBの考え方の○○が同じだから、いつでも使える考え方かも ・あんな考え方もあるんだ ・この考え方はわかりやすい	○本時の算数的活動(外的活動・内的活動・表現活動)の目的を考えておく ・到達像に向けてすべき数学的活動は何か考えておく ・その活動をすることで何を捉えさせるのか?何に目を向けさせるのか?どんな数学的思考力をつけたいのか?
	⑤ 考えを説明させ、理解させる(言語活動) ※出された考えを他児に説明にさせることで、理解力・説明力をつけていく ※子どもが発見したように、本時に身につけさせたい学習内容を確認していく		新たな見方・考え方を確かめる この方法や考え方でよいかな? 新しい内容に関する数学的な考え方を発見・創造する	○数学的表現力(式、図、表、グラフ、言葉)をつけていく ・自分の考えを整理するため ・他者によりよく伝えるための表現の工夫ため ・他の表現をよく理解するため
	⑥ 子どもの考え方を板書にまとめ、本時の学習内容をまとめていく ※<まとめ>のプレートを貼り、赤線で文言を図む	共感的人間関係を育む場	学習内容を獲得する<まとめ> ・わかったことは□□だ ・○○すれば、△△できるよ ・この考えは、いつでもどこでもつかえるよ	○子どもの考え方を、比較したり確かめたりすることが出来るよう、板書や教具の提示のしかたを工夫する ・視覚的に捉えやすいように書画カメラやタブレット(ICT 機器)を活用する ・考え方の筋道がわかるような矢印や色分け、吹き出し等を用いる
	⑦ 習得した学習内容を習熟・活用させる ※復習プリントやドリルで学習内容の定着を図る ※次時の学習に既習事項を活用するようにする ※日常生活に学習したことを活用させる		学んだことを習熟・活用する 見つけたことわかったことが使えるかな?	○学習内容は、教師が教え込むのではなく子どもが自ら発見した喜びを感じるようにする ・子どもが主体となるように、言葉を投げかけたり、問いかけたりして、子どものつぶやきが生まれる教室の空気を作るように心がける。

津久見市版「新大分スタンダード」に基づく授業観察シート

津久見市版 「新大分スタンダード」に基づく授業観察シート



日時	月 日 限	授業者名	学年 学級	年 組	教科等	記載者名
		観察項目	観点例	力点	備考 (参観者が気づいたことを記入)	
授業構想	① 教材研究	付けたい力を付ける方法や (学習活動) 教材の解釈が適切である。	・設定した学習活動を行えば確実に設定されている付けたい力が付くか。 ・指導内容や教材の解釈は的確か。 ・時間配分は適切か。			
	② 評価規準	付けたい方に合った評価規準を設定している。	・単位時間に①評価する場面や②評価規準が設定されているか。 ・ねらいに応じた適切な評価規準が具体的な児童生徒の姿で設定されているか。			
	③ 問題解決的な展開	教科の特性に応じた問題解決的な展開である。	・問題解決的な展開のプロセスが指導者に意識されているか。			
導入	④ めあて 課題	「課題・めあて」を適切かつ明確に位置づけている。	・児童生徒が学習の見通しをもち、主体的に取り組めるか。 ・本時のねらいに迫る適切な課題が示されているか。 ・児童生徒が意欲的に取り組む必然性や工夫があるか。			
	⑤ 自己決定	児童生徒が自分なりの考えをもつことができている。	・自分なりの考えをもつ時間を適切に設定しているか。 ・考えをもつために必要な既習事項や学習用語の確認は適切に行われているか。 ・考えをもつことができる補助発問や学習の手引き、ワークシート等が適切か。			
展開	⑥ 共感的な人間関係	交流活動等を通して児童生徒が自分の考えを深化・拡充できている。	・ペア学習・グループ学習・一斉学習等、協働的な学びにより、互いの考えを認め合ったり、自分の考えを深化・拡充したりする場が設定されているか。			
	⑦ 自己存在感	児童生徒が自分なりに考えをまとめ、表現している。	・多様な考えを整理・分析・深化する手立てが適切であるか。 (ヒントの提示、思考類型の提示、思考ツールの活用等) ・自分の考えを発表したり、説明したり、記録したりする場が設定されているか。			
	⑧ 板書の構造化	児童生徒の思考を助けたり、深めたりするのに適した板書である。	・思考の流れに沿って整理されているか。 ・文字の大きさ、配置、色分け、筆順等は適切か。			
終末	⑨ 習熟の程度に応じた指導	習熟の程度に応じて、適切な支援をしている。	・児童生徒の質問や要望に対して適切な対応をしているか。 ・「C 努力を要する状況」の児童生徒への支援ができているか。			
	⑩ まとめ 振り返り	課題に呼応した適切なまとめができる。 本時の振り返りの視点がめでてに対しても適切である。	・学習用語を適切に使用し、課題に対し、適切にまとめているか。 ・学んだことを家庭学習につなぐ課題や宿題を示しているか。 ・児童生徒が本時で習得した学びや学び方を振り返ることができる内容か。 ・振り返りは学びに向かう力を育む内容になっているか。			
共通実践	⑪ 取組内容	*学校で設定した授業改善5点セットの「取組内容」	*児童生徒や授業者の具体的な状況			
	⑫ 学習規律	学びの基盤となる、学習規律の確立ができる。	*学びに向かう姿勢・仲間との関わり・学習用具の扱い・発表方法等、児童生徒や授業者の具体的な状況			

○授業改善のための「授業観察シート」です。

授業の振り返りや互見授業等の視点として活用して下さい。

*いつも全ての項目についてチェックするのではなく、授業観察の時間や目的、各学校の授業改善の「取組内容」や教員・児童生徒の実態に応じて、観察する項目を絞り込みましょう。

<使い方> ①授業者は、本時の教科・単元名・題目・展開・特に力を入れる「力点」に○をして授業をします。
②参観者(学力向上支援教員等)は、備考欄に気が付いたことを記入します。
③授業者と参観者は授業についての意見交換を行います。(力点を中心に)

【授業を見て一言】



児童生徒による授業評価

児童生徒による評価の項目は、「授業者に対して」「児童生徒自身に対して」「学習集団に対して」の3つに分類できます。津久見市では、児童生徒や学校の実態に応じてこれらを組み合わせたものを実施していきます。

【児童生徒による授業評価項目例】

○授業者についての評価

- ◆授業のめあてがはっきりしていた。
- ◆先生の説明はわかりやすかった。
- ◆授業の内容が、分かりやすく黒板に書かれていた。

○児童生徒自身についての評価

- ◆学習内容が理解できた。
- ◆先生や友達の説明をしっかり聞くことができた。

○学習集団についての評価

- ◆班で協力して○○することができた。
- ◆お互いの意見をしっかり聞き、話し合いを進めることができた。

小学校高学年(5・6年)における授業交換による 教科担任制実施に向けて(2年次)

～複数の教員で関わり、児童一人一人に確かな学力を～

【実施上の留意点】

津久見市教育委員会では、次に示すような効果を期待し、平成28年度から平成30年度にかけて3か年計画で、**授業交換による教科担任制の実施・確立を目指します。(津久見スタイル)**

- 学年に複数の学級がある高学年(5・6年)において、すべての教科のうち2教科以上で授業交換(国語・社会・算数・理科・外国語活動の5教科のいずれかを可能な限りいれて)を行う。
- 年間を通して、計画的に実施する。
- 複数の教科の指導力を高めるため、可能な限り学期等で担当教科を交代・変更するなどの工夫を行う。

【期待される効果】

○教材研究の充実による、よりよい授業の実現

担当する教科の研究や準備に多くの時間をあてることができるために、授業の質が高まるとともに、1つの指導案で複数回の授業を行うことで、教員の授業力の向上が期待できます。

○複数の教員による多面的な児童理解に基づく組織的な指導の充実

より多くの教員が児童に関わることにより、児童のよさや課題を多面的な視点からとらえることができるため、一人一人に応じた学習・生徒指導が期待できます。

○組織力の強化

必然的に連携の機会が多くなり、教員の連携が強まり、組織力の向上が期待できます。

○中学校の授業形態へのスムーズな移行(中1ギャップの解消)

教科担任制を小学校で体験することにより、中学校進学後も教科担任制へのスムーズな移行が期待できます。

※単学級の学年においても、隣学年同士で授業交換をするなど、2学年にまたがって教科を担任することにより、児童の人間関係や学習経験が広がり、教科の系統性を意識した教材研究や学習指導の充実が期待できます。

【授業交換例】

	国語	算数	社会	理科	家庭	体育
6年1組 (A)	A	B	A	A	A	A
6年2組 (B)	A	B	B	B	B	B

※国語、算数で交換授業(社会、理科の交換授業も可能)